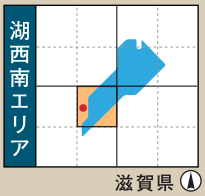
NO.005

史跡

国指定

崇福寺跡（すうふくじあと）

大津市滋賀里町　昭和16年1月27日指定



天智天皇が建立したと伝えられる崇福寺は、平安時代まで大いに栄え、東大寺と並び十大寺の一つに数えられていました。伽藍は、比叡山麓の、三つの尾根に分かれて配されています。昭和の初めの発掘調査で塔跡から出土した舎利（しゃり）容器は、天智天皇の勅願寺院にふさわしく当時の工芸の粋を尽した美麗なもので、国宝に指定されています。

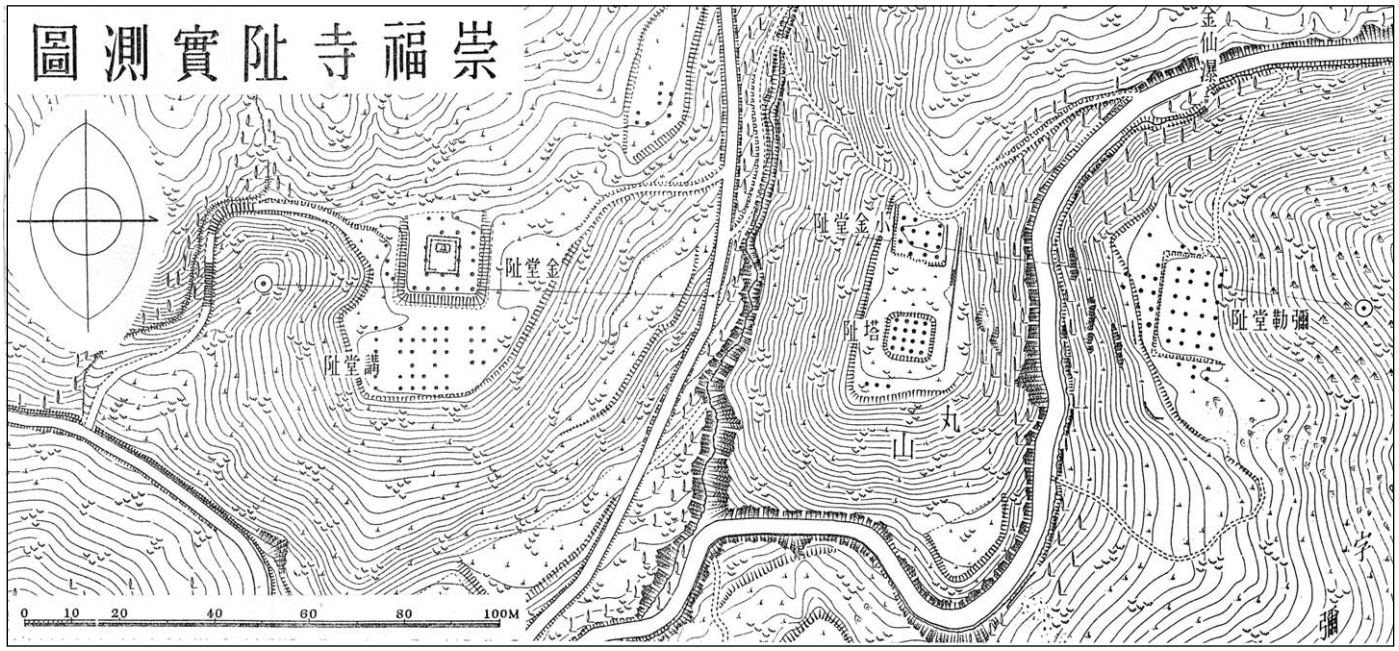
当時のできごと	
668年	中大兄皇子 天智天皇となる
740年	藤原広嗣の乱
785年	藤原種継暗殺される

崇福寺の歴史

平安時代後期の『扶桑略記』によると、崇福寺は668年に、天智天皇が大津宮の北西山中に建立したと伝えられています。「志我山寺」「紫郷山寺」「志賀寺」とも称され、『万葉集』、『続日本紀』など、多くの文献資料にその名が表れます。天平12年（740）、聖武天皇は、古代史上の謎とされる東国行幸の最後に崇福寺に参拝し、直後に都を恭仁京に遷都します。平安時代には、法隆寺や東大寺と並び十大寺の一つに数えられるほど繁栄し、圓融天皇や藤原道長なども詣でています。その後、災害と再建を繰り返しますが、徐々に寺運が衰え、鎌倉時代には園城寺の管轄下に入ってしまいます。これらの歴史的な経過は発掘調査によっても裏付けられています。



金堂跡の礎石



崇福寺跡遺構配置図（昭和13年）

主な遺構

昭和3年と昭和13年に、大津京を探る一環として発掘調査が行われています。その結果、主要伽藍は谷を隔てた三つの尾根上に分かれていることがわかりました。北の尾根は小字名を弥勒堂といい、瓦積み基壇の建物を含む２棟の建物が見つかっています。中央の尾根からは、塔跡と小金堂の跡が見つかっています。塔跡の中央の地下には、心柱の礎石が残っており、ここに掘られた穴から、銅、銀、金、瑠璃の４重の舎利容器が見つかっています。一番南の尾根は、最も大規模に造成されており、金堂と考えられる建物を始め、3棟以上の建物群がありました。南尾根の建物群は、方位や礎石の造りが他の尾根のものと異なることから、後に建立された可能性があり、ここを桓武天皇が延暦5年(786)に建立した、梵釈寺に当てはめる考えもあります。



塔跡の礎石

百穴古墳群

崇福寺のふもとの斜面上には百穴古墳群と呼ばれる後期古墳群があります。この古墳群を構成する古墳は、正方形に近い平面形でドーム型に立ち上がる石室、副葬されているミニチュアの炊飯具などが特徴となっています。これらの特徴のある古墳は、大津市の北に広く分布し、渡来人系の人達の墓とされています。



百穴古墳群　ドーム型に立ち上がる石室が見える



伝　弥勒堂跡

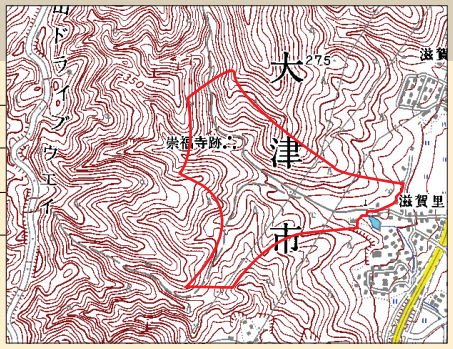
関連する文化財

南滋賀町廃寺跡（大津市）	学習シートNo.006
穴太廃寺跡（大津市）	学習シートNo.016
近江大津宮錦織遺跡（大津市）	学習シートNo.014

もっと深く知りたい

近江神宮時計博物館	☎077-522-3725	大津市神宮町1-1
大津市埋蔵文化財調査センター	☎077-527-1170	大津市滋賀里1-17-23
滋賀県埋蔵文化財センター	☎077-548-9681	大津市瀬田南大萱町1732-2
大津市歴史博物館	☎077-521-2100	大津市御陵町2-2

崇福寺跡へのアクセス　ＪＲ湖西線　唐崎駅下車
京阪電鉄石坂線　滋賀里駅下車



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔滋賀縣史蹟調査報告１～12〕滋賀縣保勝會
〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔大津の文化財〕大津市教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月